KUMAMOTO
みつかる。つながる。よくなっていく。
YMCA NEWS
2026.11
熊本地震
特別号



八代市の子どもたちを招待したあおぞらキャンプ

今日の笑顔を、明日へつなぐ。

2026年熊本地震　熊本YMCAの救援・復興支援

7月28日に発生した2026年熊本地震から、3カ月以上が経過しました。今もなお避難所での生活を続けている方々がいます。避難所の拠点化や生活環境の変化など、時間の経過とともに避難されている皆さんを取り巻く状況も変わっています。

熊本YMCAは、2016年熊本地震等での経験を活かしながら、八代市内2カ所と御船町内1カ所、計3カ所の避難所運営を担っています。また、避難生活の長期化を見据え、避難されている皆さんやボランティアとともに、より安心して過ごせる環境づくりを進めています。

一方、避難所での支援にとどまらず、被災した子どもたちを対象に、自然の中で仲間と遊び、思いきり楽しむ「あおぞらキャンプ」を実施するなど、リフレッシュや心のケアにつながる活動にも取り組んでいます。

熊本YMCAは、全国の仲間や地域とのつながりを力に、変化するニーズに寄り添いながら、活動を続けています。

避難所で続く歩み
地域の暮らしに寄り添いながら

熊本YMCAが運営を担う八代市内2カ所の避難所では、全国各地のYMCAから派遣されたスタッフが、熊本のスタッフとともに日々の運営に携わっています。数日間の活動を終えると次のスタッフへとバトンをつなぐ継続的な人的支援が避難所を支えています。また、地域の皆さんを避難所スタッフとして採用。地震の影響で勤務先が休業するなど、仕事を離れていた方々の新たな雇用にもつながりました。その他にも学生からシニア世代まで、様々な方が地域を支える一員として活動しています。

避難生活が長期化する中、生活環境の改善も大切な取り組みの一つです。9月21日（月・祝）には、八代トヨオカ地建アリーナで、避難されている皆さんやボランティアとともに、小アリーナの模様替えと大掃除を実施。段ボールベッドの更新やテントなどの間仕切りの設置などを行いました。



◀全国のYMCAの応援スタッフと、地域で採用したスタッフとともに避難所を運営

ボランティアら100名が参加した小アリーナの環境整備▼



避難所の今

八代トヨオカ地建アリーナ		鏡コミュニティセンター	
317名（8月17日※）	➡ 223名（10月23日）	84名（8月17日※）	➡ 55名（10月23日）

※熊本YMCAによる避難所運営引継ぎの開始日

八代市の避難状況（7月30日 15:00 → 10月23日 6:00）

避難所数 63カ所 ➡ 10カ所
避難者数 3,716人 ➡ 579人

寄り添う支援の大切さを実感



トヨオカ地建アリーナ避難所 臨時スタッフ（8月～9月）
木本樹里さん

夏休みに長崎の大学から地元八代へ帰省し、トヨオカ地建アリーナ避難所の臨時スタッフを務めました。避難者の皆さんと楽しく心休まる場をつくりたいと「お月見会」を提案しました。ワイズメンズクラブ等の温かい支援をうけて9月25日十五夜当日は皆でお月見団子を味わい、ビンゴ大会で盛り上がりました。曇り空でしたが奇跡的に月が雲の間から顔を出し、皆で歓声をあげました。共に月を見上げ笑顔になれた時間は、地域の絆と寄り添う支援の大切さを深く実感させてくれました。



子どもたちのリフレッシュのために
あおぞらキャンプ

被災した八代市の子どもたちをYMCA阿蘇キャンプに招き、9月19日（土）～21日（月・祝）の日程で「あおぞらキャンプ ～みんなの夏休み～」を実施しました。

参加したのは、小中学生55名。地震によって夏休み中の様々な体験の機会が減った子どもたちに、自然の中で思い出をつくってもらうことを目的に企画しました。初日は、グループでの活動を中心に、子どもたちは夏休みを取り戻すように思いきり遊びました。夜には参加者やリーダー、スタッフなど70名以上がキャンプファイヤーを囲みました。2日目、子どもたちはグループごとに相談しながら活動を選び、阿蘇の自然の中でのそれぞれの活動を楽しみました。

最終日にはピザ作りを楽しみ、キャンプ中にグループで作った旗をハサミで切って一人ひとりに分けて持ち帰りました。それぞれの日常に戻っても、ここで出会った仲間と「つながっている証」となるようにとの思いが込められています。

キャンプ中は全国のYMCAから集まった12名のユースボランティアリーダーが子どもたちをサポートしました。八代市役所に戻り、子どもたちとリーダーが一緒にキャンプソングを歌って、2泊3日の日程を終了しました。







キャンプで気づいたリーダーの在り方



名古屋YMCAユースボランティアリーダー
伊藤莉子さん（ちゅらリーダー）

あおぞらキャンプに参加した子どもたちは想像以上に明るく元気でしたが、一緒に過ごす中で、それぞれが悲しみや不安を抱えていることに気づきました。リーダーとして大切なのは、プログラムをうまく進めることよりも、一人ひとりの気持ちに寄り添うことだと気づきました。子どもたちが安心して自分らしく過ごせる時間をつくることができるリーダーでありたいです。

おとなたちにもリフレッシュの時間を

鏡コミュニティセンターで避難生活を送る方々を対象に、「心身リフレッシュ ～YMCA施設開放～」を実施しました。

避難所を離れて自由に過ごしていただくことを目的に企画。当日は15世帯23名、1歳から82歳までの方々が参加しました。一行はバスで避難所を出発し、熊本YMCAみなみグローバルコミュニティセンターを訪れました。フィットネスジムやプール、お風呂、サウナ、保育室、学習室などを参加者に開放し、屋外ではキッチンカーやたこ焼きの販売も行われました。



みなみグローバルコミュニティセンターではスタッフたちが出迎えた

2026年熊本地震
救援・復興支援募金

募金の使途
■**熊本YMCA支援募金**
（被災した熊本YMCAの支援・プログラムの継続など）
■**熊本地震 救援・復興支援募金**
（被災地域での支援活動など）

詳しくはWebサイトへ

お問い合わせ
熊本YMCA 本部事務局
TEL 096-353-6397
〒860-8739
熊本市中央区段山本町4-1